

反復を好まなかったら

さて、もし三回繰り返しても、それ以上子供が繰り返しを望まない場合は、どうしたらよいでしょうか。それは、その手本を示す親の態度に、楽しい雰囲気になかったせいかも知れません。もしそうであったら、心から楽しいことをしているように親自身が思い込んで、お手本を示してやる必要があります。

それでもなお、子供が繰り返しを望まないならば、それがその子供にとっては、過酷な仕事であったのかも知れません。つまり、むずかし過ぎて出来ないのではないかと考える必要があります。

子供というものは、だれでも、“むずかしいことを克服することに喜びを感じる”という性格を持っています。少々の困難や失敗は、喜びこそすれ、決してそれにへこたれるものではありません。

よちよも歩きを始めたばかりの子供は、歩いては転び、歩いては転びしています。

しかし、「ああいやになった。歩くことはもう諦めた」などという子供は、世の中に一人もいないはずで

だから、もし子供がそれを求めてやろうとしないならば、それがどん

なにやさしそうに見えることであっても、その子供にとっては“むずかし過ぎること”だと考えてみる必要があるのです。それがその子供にとって適当なむずかしさであるならば、子供は三回の挑戦で本能的にそれを感じ取り、その仕事を克服することに挑戦するはずで

す。そういう訳で、子供がそれを求めてやらない時は、それよりも一段低い仕事は何かをよく考え、それよりもやさしい仕事を見つけて、これを与えてやることです。必ずやる気を起こす仕事が、何かあるはずで

す。生まれつき生命力の強い者と、弱い者とのあることは確かだと思います。しかし、生きている以上、どんなに弱くても生命力はあるのであり、やる気はあるのです。

ただ、生命力の弱い子供にとっては、やる気の起こる仕事の範囲が狭いだけであって、決してないではありません。

その弱い“やる気”の起こるようなやさしい仕事を与えることで、子供のやる気を起こしてやれば、その弱い火も次第に強い火にと燃え盛っていくものです。それが教育というものであり、それが親のしてやれる最高の贈り物ではないでしょうか。